

震災後に設置された現地救援本部時代から都市生活地域復興センターを経てNPO法人都市生活コミュニティセンターの現在に至るまで常に先頭で動かれていた前川理事長、川島理事の退任を受け、新たに佐々木理事長、石川理事、梶田理事が誕生しました。

2007年度 新理事紹介

理事長 ＊ 佐々木 京子 (TCC介護福祉部長)



都市生活コミュニティセンター(TCC)の傘下で介護保険事業を初めて6年目になります。TCCの活動の出発点はいまでもなく阪神・淡路大震災の発生です。当時は震災復興のみの活動でした。6年前にNPOの法人

格をとってからは災害時や高齢社会においても安心してらせるまちのたすけあいのしくみとネットワークを編み上げていくことを目的としています。そして、市民の活動と事業を担い発展させるのがTCCの役目です。

私たちが訪問介護事業をはじめられたのは、「より幅広い市民参加による継続性を持った福祉等の市民事業を行い、またそれらの事業を担いうる“ひと”を養成し、地域内外の社会資源との協働によって市民による支え合い・助け合いの地域社会を実現する」という目的を持ったTCCがあったからです。そして新しい働き方「ワーカーズコレクティブ」について指導助言していただき、自分達で運営していく厳しさと楽しさを学びました。まだまだ、現在も学習中ですが、地域に根ざした活動に邁進してまいります。

また、一人でも多くの方がTCC会員になって、現代社会におけるボランティア活動参加を体感して頂きたいと思っています。

理事 ＊ 石川 雅可年 (生協 エスコープ大阪・常務理事)



この度、震災後の救援活動から始まった、都市生活コミュニティセンターの理事に就任することになりました。

あの震災からあつという間に時間が過ぎてしまいました。震災翌日、水やカセットコンロ、トイレトーパーなどを生協の3トン車に積み込み

都市生活の西宮センターへ運んだ事、ポートアイランドで食料品の販売を行ったことなど今でも鮮明に覚えています。私自身の人生観や生協職員としての職業観(生協のはたす社会的役割認識)が大きく変わった出来事であった事には間違いありません。

縁あって理事として関わることになりました、精一杯がんばります。

理事 ＊ 梶田 美奈子 (ミュージックセラピーグループ ハーモニー代表)



初めまして、この度2年の任期を仰せつかり、新理事として新しく参加することになりましたミュージックセラピーグループハーモニーの梶田です。私の専門は「音楽療法」。ハーモニーでは震災以降の10年間、地域のボランティア活動の中に音楽を使ったコミュニ

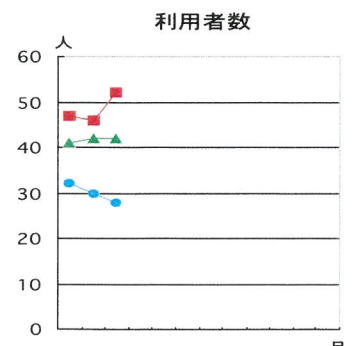
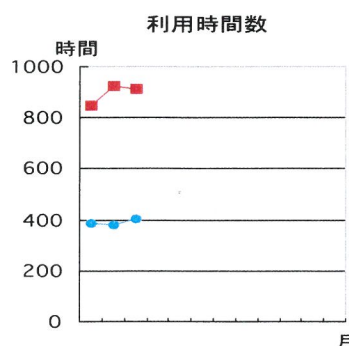
ケーションや心の癒しを取り入れて、主にお年寄りとの交流や活動を続けてきました。これまでに理事の経験は無く、全く未知のゾーンですが、これから出会う人や出来事の1つ1つが新たな学びの場となると思います。どうぞ宜しくお願い致します。

2007年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と (垂水)
- ★あしすと武庫之荘 (尼崎)

- 現在、2つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。
- 武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)、障害福祉サービス事業もを行っています。

- 垂水
- 武庫之荘
- 居宅介護支援



退任のご挨拶

寺田寅彦さんは科学者なので「天災は忘れた頃にやってくる」と述べたのですが、阪神・淡路大震災は私にとって忘れることが不可能なことです。

普通に生きている生活基盤(住居、電気、水道、ガス、食べ物、トイレ、着るもの…)が無くなって丸裸になったとき、人はどのようにして生きていけるのか。病気になったとき、老人になって体の自由が利かなくなったとき、視力を失ったとき…。

何か(食事でも、仕事でも…)をしようとするときに、自分できなくても誰かの助けを借りて何時でもほとんど障害無しにできれば何の問題もありません。問題は、誰の助けを借りられるかということです。家族や友人の助け、自治体のサービス、お金を払って買うサービス…。

このテーマは万人共通です。公的なまた私的な支援に加えて、「共的な相互支援の関係性を一杯持っていれば、私たちは自分で生きていくこと(自立)ができるはずだよね」ということがこのNPO設立にいたる考え方でした。

そんなことを震災後の支援活動の中で学ばせていただき、周りの方々に教えられ、気付かせていただいた11年間でした。私自身が一皮剥ける(と自分では勝手に思っているのですが)機会となりました。お付き合いいただきありがとうございました。
(前理事) 川島 三夫



2007年6月16日の総会で退任をしました。会員の皆様には温かいご支援をいただき、ありがとうございました。

TCC(NPO法人都市生活コミュニティセンター)は震災時の拠点から今日までその時々々の活動に合わせて呼び名を変え現在の名称になっています。私に関わって13年、共に歩んできたといえます。どのような名称にな

ろうとも、その共通引き継がれているものは地域コミュニティの形成です。どのような事業を活動を行おうとも、そのことを忘れてはTCC存在は何の意味も無いと考えます。

介護報酬を不正に請求したコムスの事件から総会で会員から出された意見は「介護現場の問題点を解決する運動を…」でした。景気が回復して、パートの募集があるとヘルパーをやめて、パートに又パートが無くなるとヘルパーへと、という悪循環が続いています。結果ヘルパー不足です。このような介護保険制度の中核を担うヘルパーが不足したままでは高齢者福祉の充実があるはずありません。

このように見えてきた問題を根本的に解決してこそ、TCCです。相談役として残りますので、問題解決の道筋をつけることに少しでも役に立つことが出来ればと思います。今後の発展を皆さんと共に創り出しましょう。

(前理事長) 前川 智佳子 * 相談役

松本由美子さん記念講演報告 (6/16TCC総会にて)

事務局:小松高志

<生活クラブやまがた生活協同組合 常務理事(福祉担当) グループホーム 結いのき ホーム長>



松本さんから、組合員の有志により運営されている「宅老所」(生活クラブやまがた生協では、「たくろう所」としてあります。)のお話しをお聞きしました。「たくろう所」=普通の民家(二階建ての一軒家)は、自宅から通ってこられるお年寄りの憩いの場であり、そこで生活(滞在)されている方々にとっては文字通り居宅であり棲家(すみか)でもあります。様々な事情から自宅を離れての「たくろう所」での生活ですが、ここでは個室をもち、使い慣れた家具などに囲まれて

ゆっくりとした暮らしを楽しんでおられるとのこと。その方たちを、泊り込みも含めて有償ボランティアの「助け合いの会」のスタッフが支えます。「たくろう所」は介護保険制度による施設ではありません。そのような制度上の制約や規制の無いことも、お年寄りそれぞれの人生、価値観、生活ペースの尊重を可能にします。スタッフのみならず、お年より同士も支えあう、理想的な高齢者福祉の実践がそこにありました。まさに目からウロコものの衝撃的なお話でした。(「たくろう所」が開設されるまでの経緯や利用料金等の仕組みについては37号に掲載しています。ご参照願います。)

料理
研修

あしすと武庫之
荘で毎月1回行
っている研修
の報告です

第12回研修は7月23日のため
研修報告は今回お休みです。



あ・し・す・と(垂水)

総会のお知らせ

8月26日(日)10時



マリンピア神戸さかなの学校
(神戸市立水産体験学習館)

介護無料相談(月~金 9:30~17:00)

都市生活ヘルパーステーションあしすと武庫之荘

☎ 06-6433-8487

● <鍋の会> 毎月第2・第4日曜日 午後1時~5時 主催(特)ニュースタート事務局関西
場所=ニュースタート富田丘町ドミトリ(共同生活寮内の共有スペース)JR摂津富田駅から歩いて5分

詳しくは <http://www.ns-kansai.org/nabekai.html> 又は電話&ファックス 072-694-3933 までお問い合わせください。